



Private Enterprise

# Venture Pulse

## Q1 2021

**Global analysis of venture funding**

**日本語抄訳版**

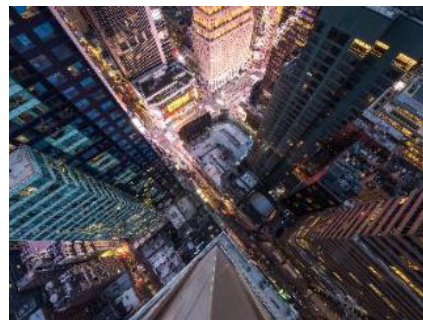
April 21, 2021

# 要旨



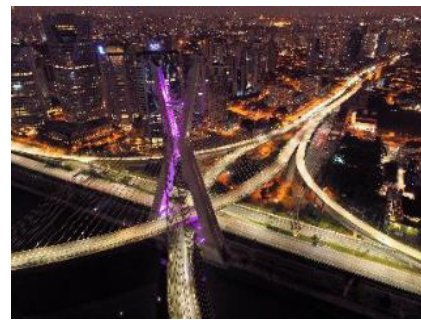
## グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資は過去最高額、1,269億ドルを記録
- レイターステージにおける資金調達額のグローバルの中央値は1,500万ドル
- シリーズD以降のプレマナーバリュエーションの中央値は10億ドルに迫る
- ファンドレイジングは堅調なスタート
- グローバル上位10件の取引のうち、米国が7件



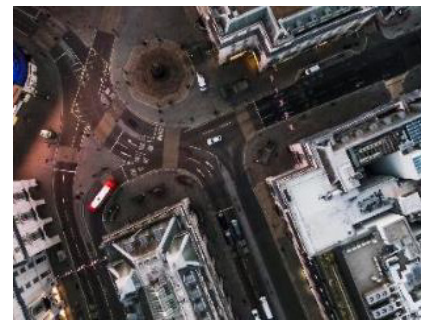
## 米国

- ベンチャーキャピタルによる投資総額は690億ドル、取引件数は3,042件
- レイターステージにおける資金調達額の中央値は1,400万ドル
- アーリーステージ取引は堅調なスタート
- コーポレートベンチャーキャピタルによる投資が急増し、300億ドルを突破
- イグジットは引き続き増加する傾向



## 南北アメリカ

- ベンチャーキャピタルによる投資総額は過去最高の744億ドルを記録、取引件数は3,310件
- レイターステージにおける投資ラウンドの金額の中央値は、対前年比で約2倍
- カナダでは5件の大型取引、最高額はDapperLabs
- ブラジルではWeCancer、Loggi、Nubankによる大型取引、投資総額20億ドル以上
- 南北アメリカにおける取引の上位は米国が独占、6億ドル超の取引が10件



## ヨーロッパ

- 四半期の投資総額で過去最高を記録、210億ドル超、取引件数1,430件
- コーポレートベンチャーキャピタルが増加、投資総額97億ドル
- イグジット件数が過去最高水準に急増
- 英国、ドイツ、北欧、スペイン、イスラエルで投資総額が過去最高を記録
- ヨーロッパにおける取引上位10件のうち、英国が7件を占める



## アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資は依然堅調で、取引件数1,615件、投資総額310億ドルを記録
- アジアの証券取引所でテック系企業のIPOが急増、10億ドル超のIPOが12件
- 中国における投資総額は、2020年第4四半期以降一定の水準
- インドにおける投資総額は、2四半期連続でわずかに下落
- アジアにおける取引上位10件はすべて中国が占める、Xingsheng Selected (30億ドル) が最高額

# グローバルー2021年 第1四半期

2021年第1四半期のグローバルでのベンチャーキャピタルによる投資は、世界の投資の大半がレイターステージの取引に集中し続けた結果、過去最高額に達しました。市場のドライパウダー（投資可能な手元資金）が増え、ベンチャーキャピタルによる投資における競争が激化した結果、特に米国でバリュエーションが上昇し、他の地域でも同様の傾向が見られました。



## 10億ドル超の取引は記録的な件数に

2021年第1四半期は10億ドル超の取引が計9件となり、グローバルでのベンチャーキャピタルによる投資総額（1,269億ドル）のうち、およそ170億ドルを占めました。この大規模な投資ラウンドの大部分は米国が占めており、Robinhood、Rivian Automotive、GoPuff、VillageMD、Databricksによる資金調達が含まれます。中国を拠点とするXingsheng Selected、香港を拠点とするLalamove、スウェーデンを拠点とするKlarnaも資金調達を実施しました。この投資ラウンドで資金調達した企業は、Wealthtech、eコマース、自動車、運輸、物流、チャレンジャーバンク（新興銀行）、ヘルスケアなど、非常に広範なセクターにわたります。



## 取引のスピードが加速し、バリュエーションが上昇

2021年第1四半期のグローバルにおけるベンチャーキャピタル市場は、世界中の投資家がこれまでになく大規模かつ質の高い取引を求めて殺到したことで、爆発的な投資活動が見られました。多数の企業がプレIPOラウンドの資金調達に殺到し、投資家側も取引を期待したことから、市場に多大なFOMO（= the fear of missing out、取り残されることへの恐れ）が発生したと考えられます。競争が激化し、募集額を超える資金を集めるラウンドが多数発生したため、バリュエーションが上昇するとともに、特にレイターステージの取引において投資活動が猛烈に加速しました。初めは米国において取引のスピードが加速し、ヨーロッパも同様に取引決定のペースが速くなりました。



## 2四半期連続で売却額が過去最高を記録

イグジットが世界中で急増し続けた結果、2021年第1四半期、667件のイグジットが実施され、売却総額は2,840億ドルに達しました。2020年は年間を通じて2,219件、売却総額4,720億ドル

でした。韓国のeコマース最大手Coupangが、2021年第1四半期における最高額のIPOを実施し、ニューヨーク証券取引所で45億ドルの資金を調達しました。ヨーロッパでは、ドイツを拠点とするAuto1およびデンマークを拠点とするTrustpilotはIPOに成功しましたが、英国を拠点とするDeliverooは困難なIPOとなりました。同社の業績が基準以下であったことから、投資家は競争の激しいデリバリーセクターにおける各社の動向を慎重に見極め、収益性が注視される結果となりました。

ダイレクトリスティング（直接上場）はイグジットの方法として引き続き現実的な選択肢であり、米国を拠点とするビデオゲームプラットフォームのRobloxがその一例です。仮想通貨取引所であるCoinbaseも、ダイレクトリスティングによる株式公開の計画を発表しました。同社の株式は2021年第2四半期前半に取引が開始される予定です<sup>1</sup>。



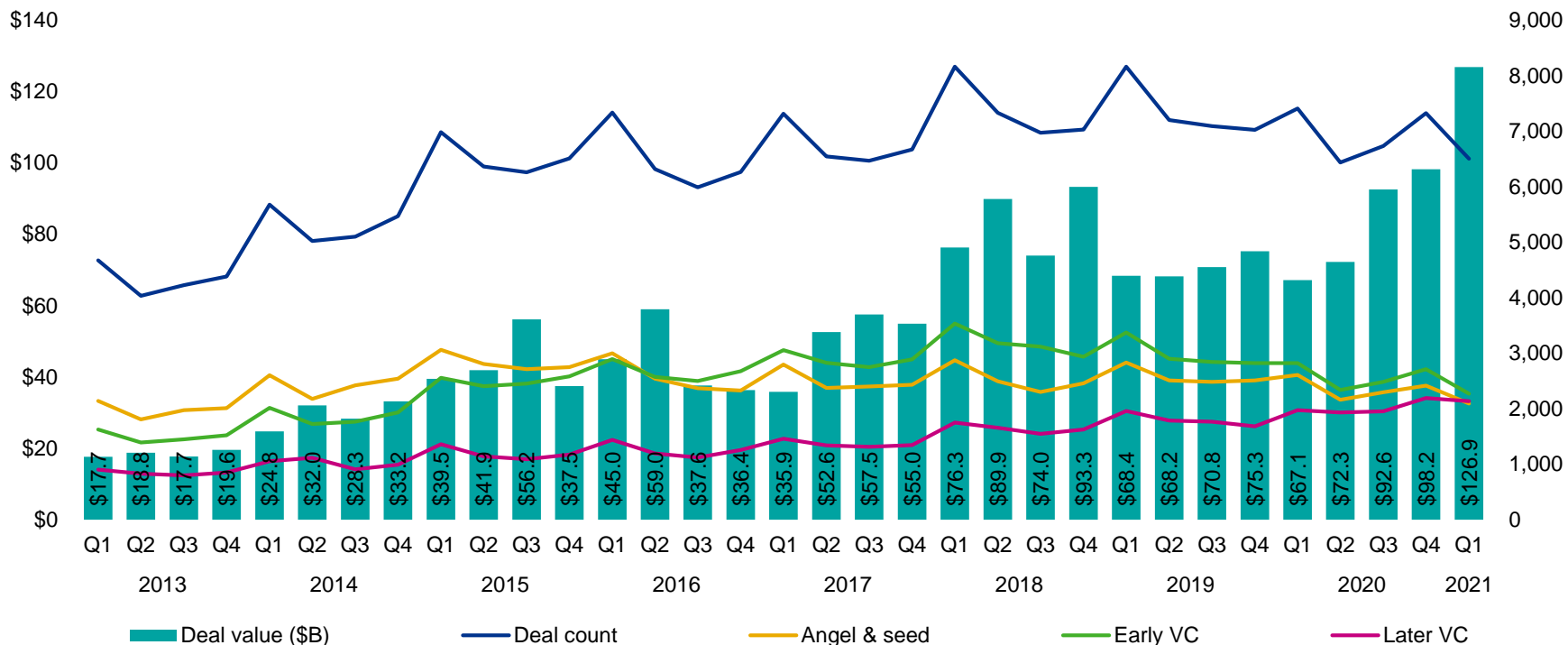
## 世界的に注目すべきトレンド

ベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第2四半期、特にFintechおよびB2Bサービスにおいて世界的に堅調が続くと予想されます。AI、ロボット工学、ブロックチェーン関連ソリューション（NFT：非代替性トークンを含む）も、ベンチャーキャピタルにとって優先分野になると考えられます。またイグジットも非常に堅調であることが予想されます。SPAC（特別買収目的会社）による合併も引き続き増加すると考えられ、2021年第2四半期を通じて、世界の主要地域における企業の株式公開において有力な選択肢になる可能性があります。ただし、長期的なトレンドになるかどうかは、今後数四半期を通じて発表されるSPACによる合併の業績次第と考えられます。

<sup>1</sup> <https://fortune.com/2021/01/28/coinbase-ipo-direct-listing-going-public-share-target-crypto-ipo/>

## Global venture financing

2013–Q1'21



Source: Venture Pulse, Q1'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. Data provided by PitchBook, April 21, 2021.  
 Note: Refer to the Methodology section at the end of this report to understand any possible data discrepancies between this edition and previous editions of Venture Pulse.

世界的に見ると、ベンチャーキャピタルによる投資、ベンチャーキャピタルによるファンドレイズ、バリュエーションの上昇など、非常に多くの出来事が起こっています。投資家の注目を集めている企業は、Fintech、eコマース、AI、ロボット工学、ヘルスケア、デリバリーなど広範囲にわたっており、地理的にも多様化し続けています。IPOやSPACの増加に伴い、米国以外でもイグジットが活発になっています。2021年第2四半期に向け、この傾向が減速する兆候は見られません。



**Jonathan Lavender**  
 Global Head,  
 KPMG Private Enterprise

# 米国—2021年 第1四半期

2021年第1四半期の米国は、イグジットが非常に堅調で、バリュエーションが高く、ベンチャーキャピタルの投資競争が激化した結果、投資活動が加速しました。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）ワクチンの普及が進み、パンデミックのトンネルの出口に光が見え始めたことも、2021年第1四半期の米国における楽観的な傾向の一因と考えられます。



## 10億ドルを超える超大型取引に牽引され、取引件数が増加

WealthtechのRobinhood（34億ドル）、EV開発製造のRivian Automotive（26億ドル）、デリバリアプリのGoPuff<sup>2</sup>（11億ドル）、ヘルスケア管理プラットフォームのVillageMD（10億ドル）、データ解析ソフトウェア企業のDatabricks（10億ドル）などによる超大型の資金調達、米国におけるベンチャーキャピタルによる投資を牽引しました。これらの取引は、米国のベンチャーキャピタル市場の強さだけでなく、その多様性も示しており、Fintech、自動車、物流、ヘルスケアなど、投資先として注目されているさまざまなセクターの企業が含まれています。

米国においては資金調達額が増加し、1億ドルを超える大型取引の件数も増加しており、64のユニコーン企業が誕生するという記録的な結果の一因になったと考えられます。これらのユニコーン企業には、Hinge Health、Dremio、Enfusion、Axiom Space、BlockFi、Pilot.com、Cameoなどが含まれます。



## イグジットへの関心に伴うSPACへの注目の高さ

SPACは従来型のIPOによるイグジットの代替として、2021年第1四半期も引き続き米国で定着しつつあります。米国で近年多数設立されているSPACは、上場から2年以内に投資先企業を決定する必要があります。SPACを利用した上場が容易になり、広く認知されるようになったことで、イグジットの選択肢としてSPACによる合併を検討する企業が増加しています。今後2～3年でIPOによるイグジットを検討していた一部の企業は、SPACに関してもいち早く株式公開するための機会と捉えています。SPACを利用した上場の増加に関する懸念として、企業側の

準備が完全に整う前に株式が公開される可能性がある、という点が挙げられます。SPACを利用した上場は、2021年第2四半期も重要なイグジットの選択肢となることが予想されるものの、長期的にSPACが利用されるかどうかについては、近年SPACによる合併を通じてイグジットを実施した企業の業績次第、と考えられます。

ダイレクタリスティングも引き続き、IPOの代替になると考えられます。2021年第1四半期に、ビデオゲームプラットフォームのRobloxがダイレクタリスティングを実施しており、取引初日に株価が50%上昇しました。



## 米国で注目すべきトレンド

今後もベンチャーキャピタルは魅力的な企業に対して競って投資すると予想されるため、2021年第2四半期も米国のベンチャーキャピタルによる投資は引き続き堅調で、バリュエーションも高い状態で推移すると考えられます。デジタルソリューション、AIに加え、Fintechも引き続き注目の投資分野になると考えられます。

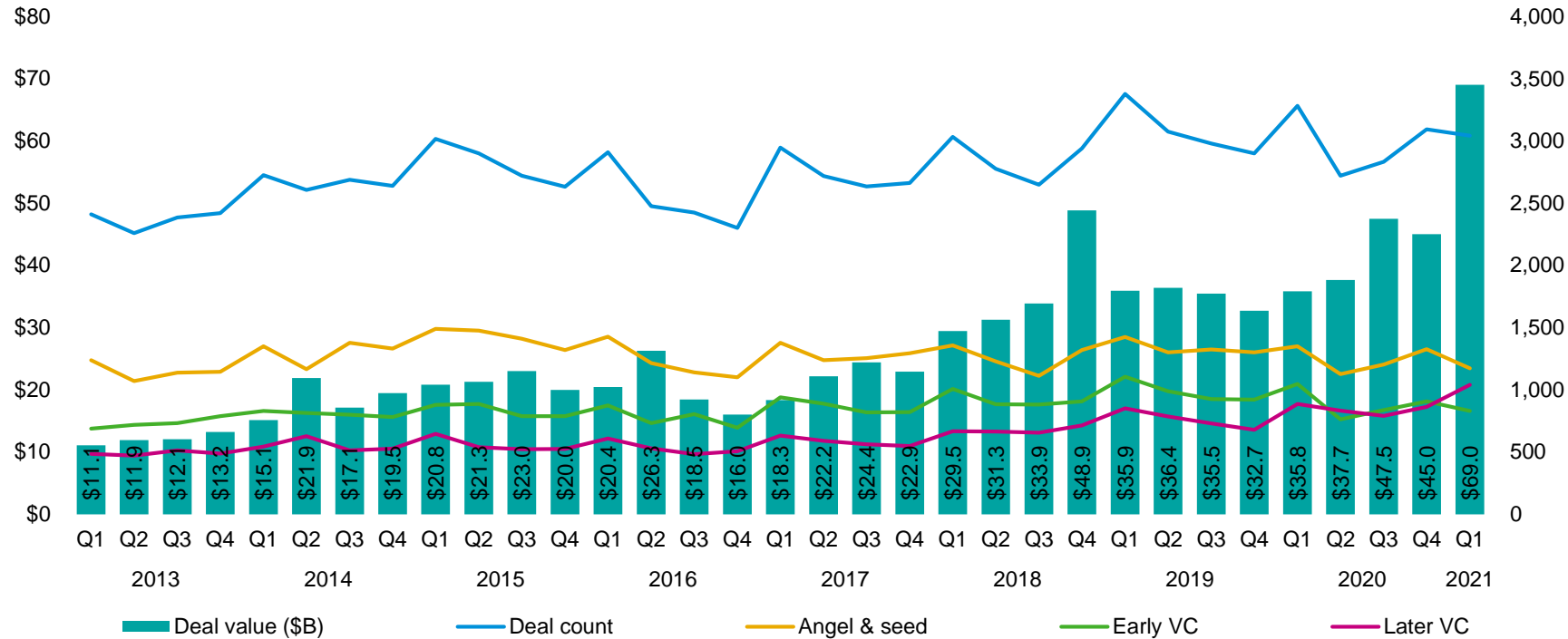
従来型のIPOおよびダイレクタリスティングのどちらも引き続き堅調が予想されます。2021年第2四半期はSPACの設立が増える見込みで、SPACによる合併も同様に増加すると考えられます。

<sup>2</sup> <https://techcrunch.com/2021/03/23/gopuff-new-funding/>

# 米国—2021年 第1四半期

## Venture financing in the US

2013–Q1'21



Source: Venture Pulse, Q1'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. Data provided by PitchBook, April 21, 2021.

引き続き、市場には投資先を探す多額の資本が存在し、保険分野への投資意欲も高まっています。従来型のIPOに加え、SPACを利用した上場も加速し続けています。当初の計画より早く株式を公開するために、SPACに自社を委ねる企業も登場するでしょう。このような企業のすべてが公開会社として効果的に機能することができれば、この傾向は継続するでしょう。



**Conor Moore**  
Global Co-Leader — Emerging Giants,  
KPMG Private Enterprise, KPMG  
Partner, **KPMG in the US**

# 南北アメリカー2021年 第1四半期

2021年第1四半期、南北アメリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資は非常に堅調で、米国、ブラジル、メキシコで記録的な水準となりました。カナダにおいても、第1四半期の投資は過去最高額を記録しました。米国における投資はパンデミックにもかかわらず2020年を通じて非常に堅調でしたが、2021年第1四半期は、南北アメリカの他の地域における投資の増加が、前年と比較して顕著に見られました。



## メキシコにおけるベンチャーキャピタルによる投資が堅調

メキシコにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、2021年第1四半期、非常に堅調でした。引き続きFintechが最注目の投資分野であり、オンラインスーパーマーケットのJustoは同国における2021年第1四半期最大の資金調達（シリーズA、6,500万ドル）を実施しました。メキシコ経済はパンデミックの影響で苦境に立たされており、COVID-19関連施策が不十分だった結果、多くの企業が倒産に追い込まれ、今後の投資に悪影響が出る可能性があります。政治的な不確実性も投資家の懸念材料になっており、特にクリーンエネルギーを始めとする新興セクターに関連する投資家に影を落としています。6月のメキシコ議会選挙の結果が投資の優先度に影響する可能性があるため、選挙に対する高い注目が予想されます。



## ブラジルにおける投資が活発、複数企業が大規模投資ラウンドを実施

ブラジルにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、好調なスタートを切り、2020年第4四半期の水準を大幅に超えています。ブラジルは金利が低く、世界中の投資家が安価な投資機会を探しており、資金調達を求める企業の多様性も拡大していることから、2021年第1四半期において、ベンチャーキャピタルによる投資が増加しました。特に事業会社による投資が顕著で、2021年第1四半期の時点で15億ドルに達しており、2020年の年間総額をすでに上回っています。

2021年第1四半期、ブラジルでは1億ドルを超える大型取引として、患者支援プラットフォームのWeCancer（5億3,000万ドル）、不動産プラットフォームのLoft（4億2,500万ドル）、デジタル銀行のNubank（4億ドル）、物流企業のLoggi（2億1,200万ドル）、オンライン家庭用品プラットフォームのMadeiraMadeira（1億9,000万ドル）などの資金調達が実施されました。この結果は、四半期での取引件数および資金調達金額として、ラテンアメリカ地域では前例のない高水準となりました。



## カナダにおける投資が急増し、過去最高を記録

2021年第1四半期、カナダにおけるベンチャーキャピタルによる投資はおよそ25億ドルで、これは2020年第4四半期の約2倍の水準です。例として、ブロックチェーンのDapper Labs（3億500万ドル）、Edtech企業のTop Hat（1億3,000万ドル）、Edtech企業のProdigy（1億2,400万ドル）が挙げられます。カナダにおけるベンチャーキャピタルによる資金調達額は引き続き増大しており、2021年第1四半期において2,500万ドルを超える取引は21件で、2020年は年間で38件という結果でした。

コーポレートベンチャーキャピタルによる投資も非常に堅調で、2021年第1四半期の投資額は8億2,600万ドルにのぼり、2020年のカナダにおけるコーポレートベンチャーキャピタルによる投資総額の約半分に達しています。

2021年第1四半期、カナダのIPO市場は非常に堅調でした。過去にスタートアップを起業したイノベーターは現在新しい企業を設立し、同様の成功を収めています。この起業成功の第2波が、多くの起業家による新規スタートアップの設立につながり、後続のイノベーションの波を生み出すことが期待されます。

# 南北アメリカー2021年 第1四半期

カナダのテクノロジーエコシステムは多様化しながら国内に拡大しており、世界トップクラスの経営陣や大規模な投資ラウンドの誘致につながり、世界的に意義のあるビジネスがより多く生み出される可能性があります。またリモートワークの拡大も有益で、企業は規模拡大のために経験豊富なリーダーを雇えるようになるだけでなく、大卒者に魅力的な機会を提供することができます。カナダ国内のベンチャーキャピタルも、以前より多額の投資が可能になりつつあります。歴史を振り返ると、カナダにおける大規模投資ラウンドは、米国のベンチャーキャピタルによって推進されてきました。現在も米国のベンチャーキャピタルによる投資は堅調ですが、カナダ国内のベンチャーキャピタルも、大規模な投資ラウンドやレイターステージの投資ラウンドに活発に参画しています。



## 南北アメリカで注目すべきトレンド

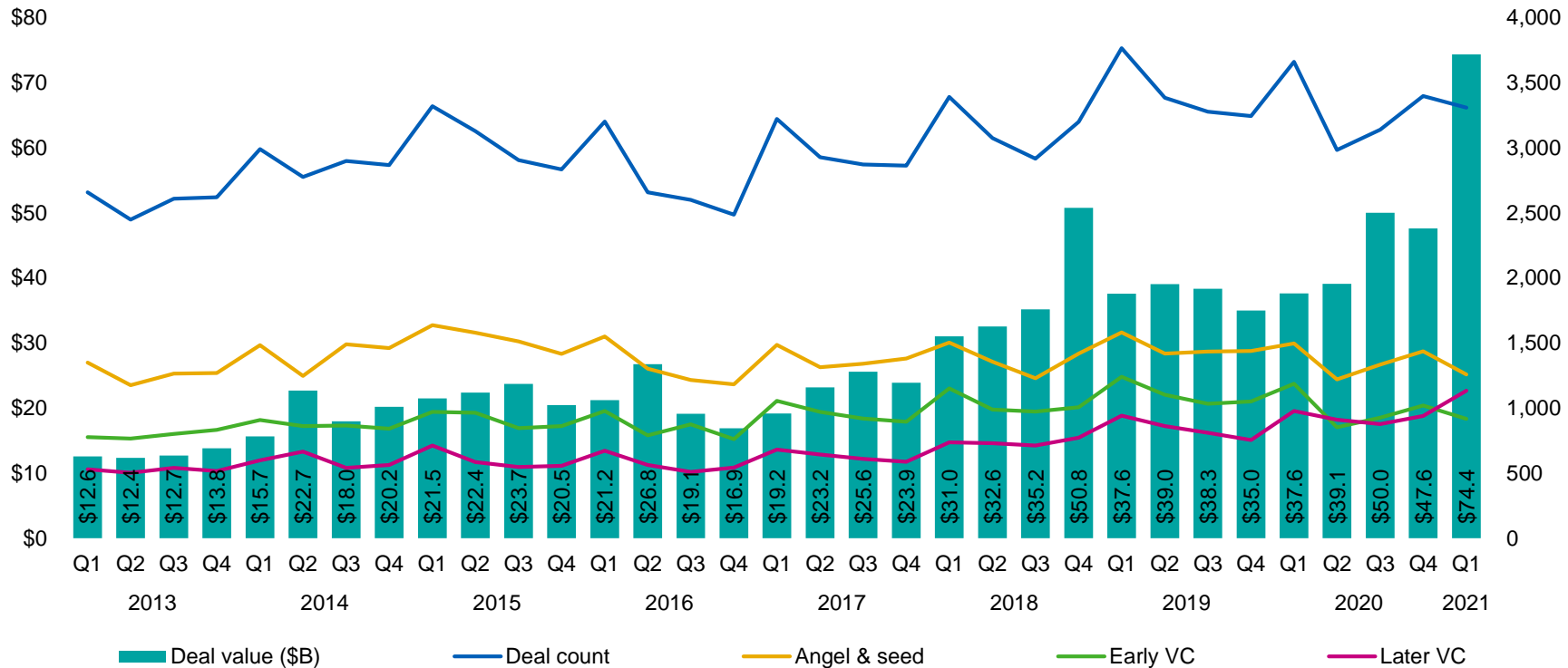
南北アメリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、市場に楽観視が広がっていることから、2021年第2四半期にかけても引き続き堅調で、特に事業会社による投資が堅調であると予想されます。イグジットも、戦略的M&AおよびIPOを含め、高い水準で推移すると考えられます。多くのSPACが設立され、米国以外の企業による関心が高まるとともに、SPACを利用した上場も高い関心を集めると考えられます。



# 南北アメリカー2021年 第1四半期

## Venture financing in the Americas

2013–Q1'21



Source: Venture Pulse, Q1'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. Data provided by PitchBook, April 18, 2021.

現在のビジネス環境が以前の状態に戻るとは、カナダの誰もが（そして世界中の誰もが）考えていないと思います。現在の課題は、パンデミックで事業の落ち込みを経験した企業が今後回復するか、ということです。またパンデミックで活性化した産業にとっては、今後事業活動が停滞するか、あるいは活発な事業を継続できるほど消費者やビジネス行動が変化したか、ということも問題です。今後数四半期で、このような課題に関連した大きな賭けとなる投資がベンチャーキャピタルによって実施されるでしょう。



**Sunil Mistry**  
Partner, KPMG Private Enterprise,  
Technology, Media and  
Telecommunications,  
**KPMG in Canada**

# ヨーロッパ2021年 第1四半期

2021年第1四半期のヨーロッパにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、数多くの1億ドル超の投資ラウンドに牽引され、大幅に増加しました。例として、スウェーデンを拠点とするKlarnaの資金調達（10億ドル超）は、ヨーロッパにおける過去最大級のベンチャーキャピタルによる投資ラウンドになりました。



## Fintechが主要なベンチャーキャピタルによる投資を誘致

Fintechへの関心は、2021年第1四半期も引き続き加速しており、それに伴いFintechに対するバリュエーションも上昇を続けています。Klarna以外にも、英国を拠点とする3社のFintechが、大規模ラウンドで資金を調達しました。具体的には、LendInvest（3億8,100万ドル）、Checkout.com（4億5,000万ドル）、Rapyd（3億ドル）が挙げられます。Checkout.comはバリュエーション価格が150億ドルにのぼり、1月時点におけるヨーロッパで最も価値の高いFintech企業となり<sup>3</sup>、その後、Klarnaが資金調達により310億ドルのバリュエーションを受けました<sup>4</sup>。各企業が、製品のデジタル化や顧客体験の向上だけでなく、業務全般の改善のためにFintechの活用を検討し始めたため、B2Bへの関心も高まりました。



## 英国でのベンチャーキャピタルによる投資は引き続き堅調

英国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、投資家が市場におけるドライパウダーの運用を考えていることもあり、2021年第1四半期も引き続き堅調でした。英国政府は、Brexit後も競争力を維持することに注力しており、2021年第1四半期に数件のレビュー（報告書）が公表されました。Hill Reviewでは、英国を拠点とする企業への投資を呼び込むと同時に、ロンドン証券取引所への株式上場を推進するための変革が必要と指摘しており、例としてデュアル・クラス・ストック（クラスAとクラスBの二種類の株式を発行）を認めるなど、上場手続きの見直しなどが含まれます<sup>5</sup>。一方、Khalifa Reviewでは、英国のFintechセクターを改善するための変革を求めています<sup>6</sup>。

<sup>3</sup> <https://www.btabloid.com/london-based-company-checkout-com-becomes-europes-most-valuable-fintech-firm/#:~:text=London%20based%20company%20Checkout.com%20becomes%20Europe%E2%80%99s%20most%20valuable,in%20an%20investment%20led%20by%20Tiger%20Global%20Management.>

<sup>4</sup> <https://www.cnbc.com/2021/02/25/klarna-to-raise-1-billion-at-31-billion-valuation.html>

<sup>5</sup> <https://www.bbc.com/news/business-56247739>

<sup>6</sup> <https://www.bbc.com/news/business-56204277>



## ドイツでのベンチャーキャピタルによる投資総額は四半期として新記録

ドイツにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、レイターステージの取引および追加投資に集中したことで、2021年第1四半期に、四半期としての過去最高額を記録しました。IPOへの関心も高まっており、多くの成熟企業がIPOおよびSPACを利用した上場を検討しています。2021年第1四半期には自動車販売プラットフォームのAuto1がIPOを成功させ、公開時に株価が45%上昇しました。同じく第1四半期には、Appleがミュンヘンに半導体開発拠点を設立する計画を発表し、この投資により同市のイノベーションエコシステムが強化されることが期待されます。また、ドイツ政府は100億ドルのfuture fund（スタートアップの規模拡大を支援するための新ファンド）をいち早く設立しました。



## 北欧では投資に対する高い関心が継続

北欧のベンチャーキャピタル市場は、レイターステージ企業が成長し大規模な投資ラウンドを誘致しており、2021年第1四半期も驚異的な強さを見せています。2021年第1四半期には、Klarna（10億ドル）やWolt（5億3,000万ドル）に加え、スウェーデンを拠点とするサウンドプラットフォームのEpidemic Sound（4億5,000万ドル）も資金を調達しました。北欧における事業会社による投資は劇的に増加し、2021年第1四半期には24億ドルを突破しており、2020年の年間総額は33億ドルでした。2021年第1四半期に、デンマークを拠点とする消費者レビューサイトのTrustpilotもロンドン証券取引所でIPOに成功し、6億5,500万ドルの資金を調達しました。北欧における他のレイターステージ企業もIPOによるイグジットを検討し始めており、ニューヨーク、ロンドン、フランクフルトなど国外の証券取引所への上場を狙う企業数は過去最大になっています。

# ヨーロッパ2021年 第1四半期



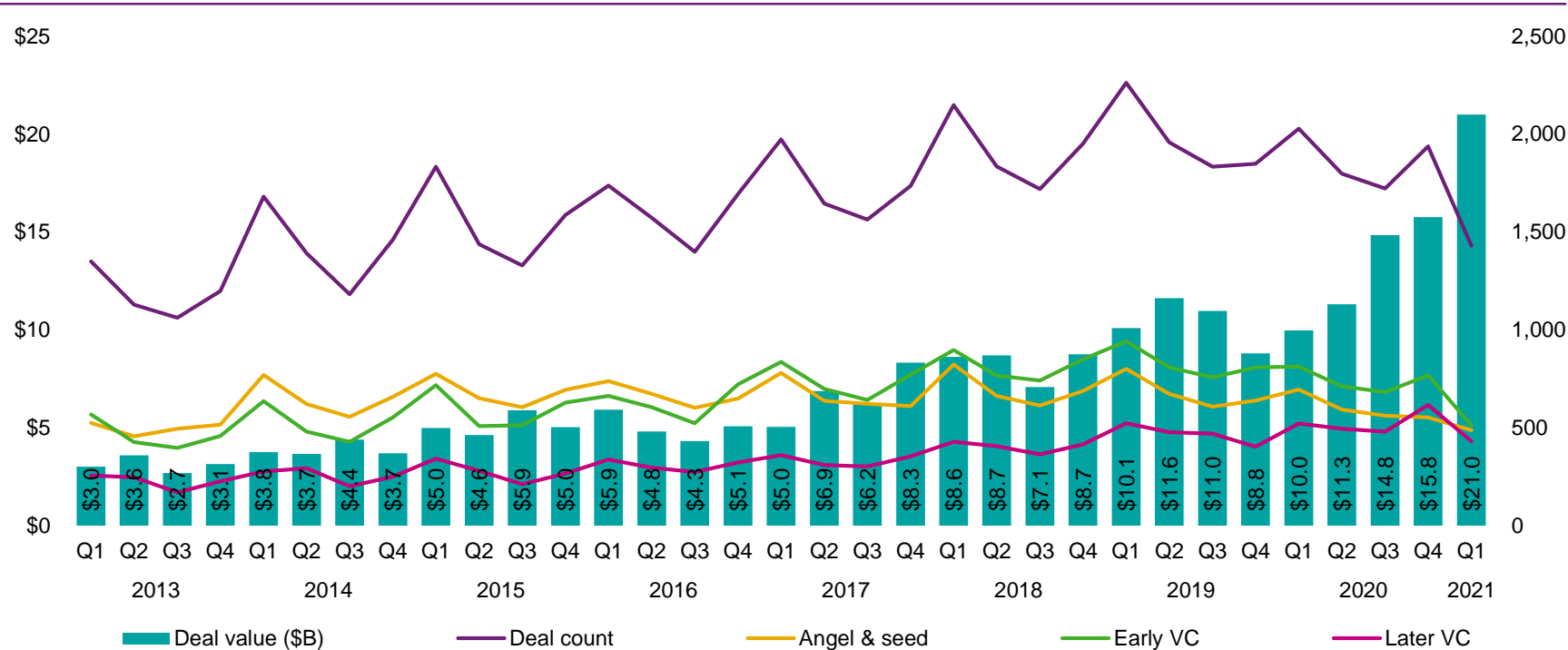
## ヨーロッパで注目すべきトレンド

2021年第2四半期のヨーロッパにおけるベンチャーキャピタルおよびコーポレートベンチャーキャピタルによる投資は、大型取引や巨額の買収案件の増加が見込まれることから、堅調を維持すると予想されています。IPOやSPACによる合併への関心も増大すると考えられます。Fintech、B2Bサービス、事業の生産性向上、サイバーセキュリティなどの分野が引き続き投資家の注目を集め、ESGも依然として支持されると予想されます。

# ヨーロッパ-2021年 第1四半期

## Venture financing in Europe

2013-Q1'21



Source: Venture Pulse, Q1'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. Data provided by PitchBook, April 18, 2021.

英国では、ベンチャーキャピタルおよびコーポレートベンチャーキャピタルの双方にとって、B2Bサービスが急成長の分野です。今後、B2Bサービスに特化したFintechがさらに多く登場し、SME（中小企業）のための財務ツールから、キャッシュフローの向上や会計要件の管理ソリューションに至るまで、あらゆるサービスが提供されるようになるでしょう。ローカルおよびグローバルの金融機関の多くが、レガシーテクノロジーやレガシーインフラの改善を検討していることから、2021年以降もこの分野で莫大な投資が継続すると考えられます。



**Kevin Smith**

Head of KPMG Private Enterprise in EMA, Global Co-Leader — Emerging Giants, KPMG Private Enterprise, KPMG Partner, **KPMG in the UK**

# アジアー2021年 第1四半期

アジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、中国での投資が継続的に回復していることから2020年第4四半期と比べ堅調で、共同購入プラットフォームのXingsheng Selectedによる30億ドルの資金調達を実施されました。



## ベンチャーキャピタルにとってアジアは引き続き魅力的な市場

2021年第1四半期、アジアは依然としてベンチャーキャピタルにとって魅力的な市場でした。しかしアジアでは移動制限が継続しており、アジアへ流入する国際投資に影響を及ぼす可能性があります。ベンチャーキャピタルのファンドの多くがアジア、特に人口が多く市場の成熟度が比較的低い東南アジアを投資対象にしています。

中国は、2021年第1四半期のアジアにおける高額な投資を呼び込んでおり、Xingsheng Selected以外にも、企業AIソリューションの4Paradigm（7億ドル）、EV開発製造のLeapmotor（6億6,200万ドル）、代替バッテリーソリューションプロバイダーのSvolt（5億4,100万ドル）、リモートヘルスケアプロバイダーのMiaoshou Doctor（4億6,300万ドル）の資金調達などが含まれます。香港（特別行政区）を拠点とするLalamoveも15億ドルを調達しました。インドにおいても、2021年第1四半期はベンチャーキャピタルによる投資が堅調で、例として、EdtechのByju（4億6,000万ドル）、eグロースリーのGrofers（4億5,000万ドル）、ゲーム企業のDream11（4億ドル）、食品デリバリーアプリのZomato（2億5,000万ドル）の資金調達などが挙げられます。



## インドでのベンチャーキャピタルによる投資活動が顕著

2021年第1四半期、インドにおけるベンチャーキャピタルによる投資は堅調で、Edtech、日用品デリバリー、ゲームなど広範囲のセクターにおいて、1億ドルを超える投資ラウンドを呼び込みました。第1四半期を通じて、資金調達を求める企業および配分されるドライパウダーの両方の影響を受け、ベンチャーキャピタルによる投資活動は大いに好転しました。企業のバリュエーションも上昇し、取引の速度もきわめて速くなっています。2021年第1四半期、インドではゲーム企業のNazara Technologiesによる国内IPOが実施され、過去最大規模のイグジットとなりました。これまで同様のスタートアップが株式を公開する場合、外国市場に目を向けざるを得なかったと考えられますが、今回のNazara Technologies による国内IPOの成功は、インドのスタートアップに対

する認識が急速に変化したことを印象付けています。



## 香港証券取引所において中国を拠点とする企業のセカンダリー上場が増加

香港証券取引所は、依然としてアジアのIPOを受け入れる重要な拠点であり、すでに米国に上場している中国企業のセカンダリー上場もその対象になっています。米国の上場規則が近年変更されたことで、米国で上場していた多くの中国企業は、米国で上場廃止となった場合も株式を公開し続けられるよう、香港をセカンダリー上場の場として検討しています。3月には、中国の巨大企業のBaiduが香港証券取引所へのセカンダリー上場で31億ドルの資金を調達しました。オンライン車両プラットフォームのAutohomeも香港証券取引所にセカンダリー上場し、2021年第1四半期に6億8,800万ドルの資金を調達しました。



## アジアで注目すべきトレンド

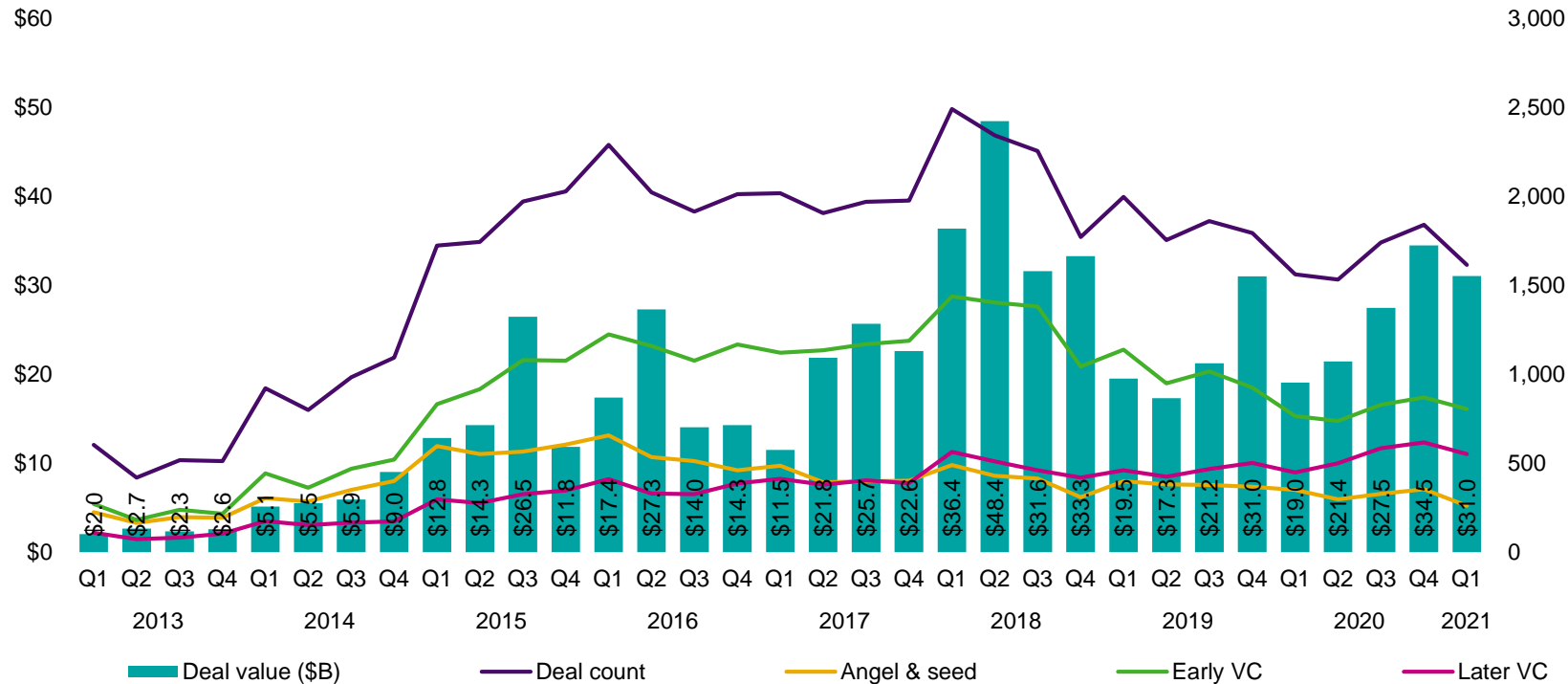
2021年第2四半期、中国におけるベンチャーキャピタルによる投資では、ヘルスケアAIのように、エンベデッドテクノロジー（組込み技術）に著しく注目が集まると予想されます。また中国が、2060年までにネットゼロ実現を宣言したことで、グリーンテクノロジーへの投資も増加すると考えられます。Foodtechに関しても、特に肉の代替食品への関心が集まっている香港において、投資家の関心を引き寄せると考えられます。

インドでは、ベンチャーキャピタルによる投資活動が加速するとともに、Edtech、デリバリー、eコマースなどのセクターが活況を呈し続けると予想され、同時に保険分野への投資への関心が大幅に高まると考えられます。2021年第1四半期に見られた大型の資金調達の多くはプレIPOラウンドと考えられることから、インドにおけるIPOも増加すると予想されます。

# アジア—2021年 第1四半期

## Venture financing in Asia

2013–Q1'21



Source: Venture Pulse, Q1'21, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. Data provided by PitchBook, April 18, 2021.

中国では、ベンチャーキャピタルによる投資がきわめて堅調で、市場のドライパウダーも潤沢です。投資家の関心は非常に広範で、さまざまな産業やテクノロジーが注目を集めています。AIは引き続き非常に重要な投資分野で、特に組込みソリューション関連で注目されており、NFT（非代替トークン）は競争が激化し始めている分野の1つです。



**Egidio Zarrella**  
Partner, Clients and  
Innovation  
KPMG China



有限責任 あずさ監査法人

Clients & Markets部 広報室

[azsa-pr@jp.kpmg.com](mailto:azsa-pr@jp.kpmg.com)

[home.kpmg/jp/azsa](http://home.kpmg/jp/azsa)

英語オリジナル

[Venture Pulse Q1 2021 : Global analysis of venture funding](#)

[home.kpmg/jp/socialmedia](http://home.kpmg/jp/socialmedia)



本冊子は、KPMGインターナショナルが2021年4月に発行した「Venture Pulse Q1 2021 : Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

©2021 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited (「KPMGインターナショナル」)の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://home.kpmg/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2021 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 21-1029

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.